

大会規定

1. チームの登録選手は 11 名以上 25 名以内（ベンチ入りは 20 名以内）とする。
2. 出場選手はその大会の登録締め切り日現在連盟への登録済みの者に限る。
3. 審査証は当年度発行のものとする。
4. オーダー表記入選手 20 名以内およびチーム責任者、登録された監督、コーチ、スコアラーのみベンチに入ることができる。ただし、チーム責任者、監督、コーチ、選手は登録証は各リーグの定めに準ずる、チーム責任者、監督、コーチは試合開始までに間にあった場合は、審査の上ベンチ入りできる。また、選手は試合終了までに間にあった場合は、審査の上 その時点でベンチ入りできる。なお、チーム責任者は必ずベンチ、もしくは本部にいないてはならない。
5. 組み合わせの若番号が 1 塁側のベンチ、後番号が 3 塁側のベンチに入る。
6. 監督、コーチは選手と同じユニフォームを着用する。
7. 試合開始時刻 60 分前までに試合球場に到着し、直ちにオーダー表 5 部、投手投球数記録副表 3 部および大会初戦の時は、直前大会参加報告書を大会本部に提出のうえ所定の審査を受けなければならない。
8. 試合開始予定時刻までにチームがグラウンドに現れないときには、球場責任者と責任審判員が協議して没収試合を宣言することができる。
9. 試合方式など
 - (1) 各試合は 7 回戦で行い、4 回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から 2 時間を超えた場合、新しいイニングには入らない（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する）。また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則 7.01(g)(4)により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。ただし、試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
 - (2) 4 回終了時（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は、4 回表終了時）10 点差、5 回以降 7 点差の場合、コールドゲームとする。
 - (3) 7 回終了後、同点の場合はタイブレーク方式を実施する。試合開始から 2 時間を超えては新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。
（競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照）
10. 試合方式など
 - (1) 各試合は 7 回戦で行い、4 回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から 2 時間を超えた場合、新しいイニングには入らない（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する）。また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則 7.01(g)(4)により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。ただし、試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
 - (2) 4 回終了時（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は、4 回表終了時）10 点差、5 回以降 7 点差の場合、コールドゲームとする。
 - (3) 7 回終了後、同点の場合はタイブレーク方式を実施する。試合開始から 2 時間を超えては新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。
（競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照）
11. 試合での登板は、以下のとおり制限する。
 - (1) 1 日最大 80 球とし、連続する 2 日間で 120 球以内とする。連続する 2 日間で 80 球を超えた場合は、3 日目は投球を禁止する。また 3 連投（連続する 3 日間）する場合は 1 日の投球数を 40 球以内とし、4 連投（連続する 4 日間）は禁止する。
 - (2) 大会中は 1 日 80 球以内とし、翌日投球を休めば 3 日目は 80 球の投球を可とする。
 - (3) (1)～(2)を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球数にカウントしない。
 - (4) 連続する 2 日間で 80 球を超えた投手、並びに 3 連投した投手は、登板最終日並びに翌日は捕手としても出場できない。
 - (5) ボークは投球数としない。
 - (6) 雨などのノーゲームになった試合は投球にカウントする。
 - (7) 2 年生以下が投手の場合も上記に準ずるが指導者は十分考慮する。

- (8) ダブルヘッダーの場合で、2試合に登板した場合は、連続2日間投球したとする。また、1試合のみ登板した場合は、1日の投球とする。
12. 監督またはコーチの指示は、以下のとおりとする。
- (1) 1試合で攻撃2回と守備2回の計4回とする。タイブレークに入った場合は、それぞれで1回の指示を認める。(選手の怪我や交代などの指示は回数に入らない)
- (2) 守備側の投手に対する指示が3回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。
- (3) 内野手が2人以上投手のところに行った時も1回に数える。
- (4) 指示を与える時間は、審判がタイムと宣告してから「30秒以内」とする。守備側がマウンドへ行く場合は、ベンチからは駆け足で行くこと。
13. 1イニングで同一の投手に対して指示が2回目となれば、自動的に投手の交代となる。その投手は他の守備位置につくことができるが、同一イニングでは投手として登板することはできない。ただし、新しいイニング入れば、再び投手として登板することができる。
14. 審判員の判定に対する抗議は認めない。ただし、ルールの適用についての確認は認める。
15. 2塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
16. ボール回しをする時は一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また、打者が打撃を継続中塁上で走者がアウトになった場合の、ボール回しは禁止する。
17. 投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。
18. 各チームは同色のヘルメット7個以上、捕手の規定防具【マスク、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガース、スロートガード、ファウルカップ(一体型捕手マスクの場合はヘルメット、スロートガードを除く)】2組を備えること。
19. ユニフォーム、バット、ボール、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものに限る。
20. 捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。
21. グランドの都合で大会トーナメント規定が別に制定している場合はそれに従うこと。
22. ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。
23. 光化学スモッグ発生の場合、試合および選手に対する措置は別に定め、運営委員の指示に従う。
24. 試合前のシートノックは原則として5分間行うが、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案して、シートノックを行うか否かは球場責任者が決定するものとする。

参考 野球規則 7.01(g)(4)

7.02(a)によりサスペンデッドゲームにならない限り、コールドゲームは、球審が打ち切りを命じたときに終了し、その勝敗はその際の両チームの総得点により決する。

【注】我が国では、正式試合となった後のある回の途中で球審がコールドゲームを宣したとき、次に該当する場合は、サスペンデッドゲームとしないで、両チームが完了した最終均等回の総得点でその試合の勝敗を決することとする。

- ① ビジティングチームがその回の表で得点してホームチームの得点と等しくなったが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが得点しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。
- ② ビジティングチームがその回の表でリードを奪う得点を記録したが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが同点またはリードを奪い返す得点を記録しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

《タイブレーク実施細則》

(1) 特別規則

- (イ) 7回あるいは試合開始から2時間を超えて(いずれか早い方)、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は一死走者満塁の状態から行うものとする。
- (ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
- (ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。

(二) この場合の代打及び代走は認められる。

(2) チーム及び個人記録

(イ) 投手記録

- ・規定により出塁した3走者は投手の自責点としない。
- ・完全試合は認めない。
- ・無安打、無得点試合は認める。

(ロ) 打撃成績

- ・規定により出塁した3走者の出塁の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁死、得点、残塁などは記録する。
- ・規定により出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などは全て記録する。

《中学生投手の投球数制限ガイドライン》 大会規定 11. (再掲)

- ① 1日最大80球とし、連続する2日間で120球以内とする。連続する2日間で80球を超えた場合は、3日目は投球を禁止する。また3連投（連続する3日間）する場合は1日の投球数を40球以内とし、4連投（連続する4日間）は禁止する。
- ② 大会中は1日80球以内とし、翌日投球を休めば3日目は80球の投球を可とする。
- ③ ①～②を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球数にカウントしない。
- ④ 連続する2日間で80球を超えた投手、並びに3連投した投手は、登板最終日並びに翌日は捕手としても出場できない。
- ⑤ ボークは投球数としない。
- ⑥ 雨などのノーゲームになった試合は投球にカウントする。
- ⑦ 2年生以下が投手の場合も上記に準ずるが指導者は十分考慮する。
- ⑧ ダブルヘッダーの場合で、2試合に登板した場合は、連続2日間投球したとする。また、1試合のみ登板した場合は、1日の投球とする。

◎投球制限ガイドラインの補足説明

(1) ③について

打者の途中で制限が来た場合とは、投球日における可能投球数の事である。中学レギュラーの部を例にすると、初日に於いては80球を超えた場合であり、また、初日68球投げた連投2日目であれば、2日目の可能投球数52球を超えた最後の打者に適用される。投手に3連投を予定していた場合には、初日、2日目に40球を超えると3日目は投げることはできない。初日、2日目に於いて打者の途中であっても40球投げた時点で交代しなければ、3連投できない。41球投げれば3連投できない。(打者の途中での投手の交代は制限していない)

(2) ダブルヘッダーについて

ダブルヘッダーの試合は、その日の第1試合、第2試合どちらかで投げれば翌日(前日)の試合の連続扱いとする。(片方の試合に登板しなくとも休みとはしない)
両方の試合に投げた場合は、1日の最大投球数80球で連続の試合で投げたこととなり、翌日投げる場合、また前日投げていた場合は、3連投の扱いとなり、1試合40球を超えていると投げられない。